

多文化社会実践研究・全国フォーラム（第7回） 多文化社会人材の専門職化 —人材養成の取り組みから可能性を探る—

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センターは多文化社会実践研究・全国フォーラムを毎年開催しています。7回目となる今回は、多文化社会の人材養成の取り組みについて、中心的に関わっている方々からご報告をいただき、その意義と課題、さらに多文化社会を担う人材の専門職化の可能性および課題点について議論を進めます。

日時

2013年11月30日(土) 10:00~18:00
(懇親会 18:20~19:30)

場所

東京外国語大学 府中キャンパス
(西武多摩川線 多磨駅徒歩5分)
※入場無料(懇親会のみ3,000円)

内容

※詳細はセンターHPをご覧ください(内容等若干変更する場合があります)。

■パネルディスカッション I

司法分野における遠隔通訳の実験的取り組みとコミュニティ通訳の役割 —13の弁護士会との協働研究から

パネリスト

名倉 貴之(コミュニティ通訳コース修了者、スペイン語通訳者)
高貝 亮(弁護士、関東弁護士会連合会 外国人の人権救済委員会副委員長)
指宿 昭一(弁護士、関東弁護士会連合会 外国人の人権救済委員会委員長)
内藤 稔(本センター特任講師)

コーディネーター

杉澤 経子(本センタープロジェクトコーディネーター)

■ランチタイムセッション

遠隔通訳デモンストレーション ①12:00~ ②12:20~(各15分間)

午前中のパネルディスカッションのテーマである「遠隔通訳」が、実際にはどのように行われているのか、その一端を実演します。

■研究発表セッション

I 12:40~14:10 / II 14:20~15:50

◆個人/グループ発表

■特定課題セッション(12:40~15:50)

◆実践研究交流ラウンドテーブル
◆多文化社会における専門人材に関する研究発表

■パネルディスカッション II

「多文化」を巡る専門人材の養成と専門職化への可能性
—制度化に向けての論点整理

パネリスト

古屋 幸一(財団法人自治体国際化協会 多文化共生部多文化共生課長)
結城 恵(群馬大学 大学教育・学生支援機構教育基盤センター教授)
石河 久美子(日本福祉大学社会福祉学部教授)
阿部 裕(多文化間精神医学会理事、明治学院大学心理学部教授)

コーディネーター

山西 優二(本学特任研究員、早稲田大学文学学術院教授)

■懇親会(学内)

10
:10
:11
:50

昼
食

12
:40
:15
:50

16
:00
:18
:00

19:18
:30
:20
:5

当日参加された方で希望者には「在日タイ語圏児童のための漢字教材」(1年生配当漢字)見本版を差し上げます(お1人様/1団体1冊)

■申込方法

本センターHPのフォームからお申し込みください(定員300人)。

■主催・お問い合わせ

東京外国語大学
多言語・多文化教育研究センター
TEL:042-330-5441
FAX:042-330-5448
E-mail:tc-zenkoku@tufs.ac.jp
<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>
(「多言語・多文化教育」で検索)

第289号 自治体国際化フォーラム11月号

平成25年10月15日発行

編集人 藤田 穰

発行所 財団法人自治体国際化協会

〒102-0083

東京都千代田区麹町1-7

相互半蔵門ビル

Tel. (03) 5213-1722

Fax. (03) 5213-1741

Homepage <http://www.clair.or.jp/>

E-mail forum@clair.or.jp

編集協力・印刷 エイト印刷株式会社

本書からの無断複写・転載を禁じます。

編集後記

先日、国際交流についてこんな話を聞きました。「地域の発展には必ず外部からの参加者が必要。外から入ってくる「風」が、地域に根ざした「土」に交じり合うことで「風土」は生まれ、育まれる」と。国際交流はこの「風」を連れてくることなのだ。なるほど、変化のないものに進歩はなく、進歩のないものは腐れてしまうだけなのでしょう。今ある地域の良さを守るためにも、腐らせないためにも、風通しはよくしておかなければならないんですね。

今回の特集ではさまざまな地域が行うテーマを絞り込んだ交流を紹介しました。外からの風を取り入れることで、地域の特性をさらに魅力的なものにするヒントがちりばめられています。(A.T)